

Ⅲ類（家庭）系列の再構築（第一報）

— 時代的要請に応じて —

家庭科 間瀬昭子 小林美智子 後藤卷子
石田光枝 池田美和

今回の新学習指導要領の改訂に伴い、種々の時代的要請を機として本校におけるⅢ類のあり方を再構築した。新構想として現Ⅲ類の両系列を統合し「総合的な家庭科の系列」と、少子高齢社会における役割を担い「教養としての生活福祉の系列」を設置することを試みた。人間とその一生を大切にする価値観を土台に据えた教育を目指し、各々の系列にふさわしく選択を可能とするため、現行科目と新設定科目の考察・精選の過程を報告する。

キーワード：家庭科と福祉 生きる力 家庭科教育の統合化 少子高齢社会

I. はじめに

現在、本校Ⅲ類では、「食物栄養系列」と「アパレル系列」の2系列を置いている。系列の科目をまとめて履修すれば、食物系と被服系の知識と技術について専門的に学ぶことが出来る。現に三年間学んだ後さらに進学し、スペシャリストとして活躍している卒業生も多い。

しかし、今回の新学習指導要領に伴い、本校におけるⅢ類のあり方を考え直し、従来の系列を大きく変更し、総合家庭科系列（仮称）と生活福祉系列（仮称）の2系列とした。

今回は、まだ途中段階ではあるが、総合家庭科系列について構想を報告する。

II. 変更理由と新構想

現行での学習指導要領では、「家庭生活及び関連する職業に必要な能力と・・・」という目標が掲げられていたが、新学習指導要領ではこの目標が消え、「家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、・・・」と改訂されている。さらに、少子高齢社会であることも踏まえ、家庭科での学習目標を次のようにまとめた。

- ①生活を自立し営む力
- ②生活に主体的に関わる力
- ③平等な関係と協力・連携する力
- ④生活を創造する

以上のことを考え、「人間とその一生を大切にする価値観を土台にすえた教育」を目指した。

これらのことから、新構想として「総合的な家庭科の系列」と少子高齢社会における役割として、「教養としての生活福祉の系列」を試みた。

III. 科目設定について

(1) 新構想家庭科の系列について

○系列名

「生命と生活」「総合家庭科」「生活科学」等いくつか候補はあるが、まだ未定である。

○教育目標

家庭の各分野に関する知識と技術を総合的に修得させ、真に生きる力を育成する。さらに、家庭の各分野に関する諸課題を主体的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

○設定科目

系列基礎科目	2単位
クッキングⅠ	4単位
クッキングⅡ	4単位
栄養	2単位
フードデザイン	2単位
アパレル技術Ⅰ	4単位
アパレル技術Ⅱ	4単位
ファッション情報	2単位
保育	2単位
家庭看護・福祉	2単位

(2) 現行系列と新系列の設定科目について

Ⅲ類の系列科目 (必修科目を含む)

現行カリキュラム

新構想カリキュラム

必修科目 (家庭科)
家庭一般 (4)

必修科目 (家庭科)
家庭基礎 (2)

Ⅲ 類	
アパレル系列科目	食物栄養系列科目
服飾デザイン (2)	調理Ⅰ (2)
アパレル技術Ⅰ (4)	調理Ⅱ (2)
アパレル技術Ⅱ (4)	調理Ⅲ (4)
ソーイング (4)	食品 (2)
ハンドクラフト (2)	栄養 (2)
	食品衛生 (2)
その他のⅢ類選択科目	
保育 (2)	家庭看護・福祉 (2)
	クッキング (2)
単位計 (16) + (14) + (6) = 36	

Ⅲ 類	
生活文化系列科目	福祉
生活文化基礎 (2)	
アパレル技術Ⅰ (4)	
アパレル技術Ⅱ (4)	
ファッション情報 (2)	
クッキングⅠ (4)	
クッキングⅡ (4)	
フードデザイン (2)	
栄養 (2)	
その他のⅢ類選択科目	
保育 (2)	家庭看護・福祉 (2) ?
	(外) 生活文化 (2)
単位計 (2) + (10) + (12) + (2) = 28	

※太字は福祉系列と共通科目

※生活文化は外部講師科目

(「家庭看護・福祉」については、福祉系列の生徒向け科目としては看護教科「基礎看護」の科目が設定できなかった場合のみ家庭科科目からの設定を考える)

①必修科目

○「家庭一般」(4単位)は「家庭基礎」(2単位)となった。1年次生をみの履修となり、家族・福祉、食・衣・住生活、消費生活、保育等の全域から精選した内容構成を考える。

②選択科目

○「調理Ⅱ」(2単位)は「クッキングⅠ」に改名し、4単位に増単することで、現行科目の「食品」(2単位)と、「食品衛生」(2単位)での内容を含めることとする。食品の性質と調理性について内容を濃く充実させ、より食物調理分野の専門性を高める。

福祉系列の生徒では必須となる調理については、この「クッキングⅠ」までを選択することを想定している。

○「調理Ⅲ」(4単位)は「クッキングⅡ」(4単位)に改名し、現行同様に食物史、様式別調理、病態栄養やライフステージと調理、大量調理などを内容とし、幅広い知識獲得と調理実践による専門性を充分に高めることで、調理師や栄養士ほか食生活に対しアドバイザーとなる資質を育てる。

現行科目で実施していたフードコーディネート等の食環境の応用編となる内容は、新設定科目「フードデザイン」に移行する。

○「栄養」(2単位)は現在も開講している科目であり、Ⅲ類食物調理分野の専門性を高めることを目的としているが、しかし、福祉系列で必須となる科目でもあるため、対応として、栄養素の機能と代謝のほかライフ

ステージや病態と栄養との関連について、より強調した内容で構成する。

○上記理由等により、「食品衛生」(2単位)と「食品」(2単位)、また自由選択科目「(旧)クッキング」(2単位)は、設定しないこととする。

○「アパレル技術Ⅰ」(4単位)は現行の「ソーイング」「ハンドクラフト」の内容を含め、立体構成と平面構成を取り入れた内容とする。家庭基礎や系列基礎科目の被服領域での基礎をふまえて、ゆかた・帯・ブラウス・スカートの製作をしていく。

○「アパレル技術Ⅱ」(4単位)は「アパレル技術Ⅰ」を更に発展した科目で、専門性の高い技術を習得したい生徒向けの科目である。内容としてはパーティードレス・コート・スーツの製作をしていく。

○「ソーイング」(4単位)・「ハンドクラフト」(2単位)は新系列の科目「アパレル技術Ⅰ・Ⅱ」に吸収させることとする。

○「保育」(2単位)は現行と大きく変えず、思春期の健康から乳幼児の生活と保育・福祉までを含め、Ⅲ類の両系列はもちろん、他類の生徒を対象としても可能な内容の構成とする。

○「家庭看護・福祉」(2単位)は、福祉系列向きの看護教科「基礎看護」に設置変更することが望ましい。養護教諭もしくは外部講師による授業での可能性を考えている。

IV. 新科目について

◇系列基礎科目

現行の系列基礎科目「調理Ⅰ」「服飾デザイン」(ともに2単位)は、これまでのⅢ類それぞれの系列で学ぶ生徒の基礎科目として技術の習得に大変重要な科目であった。しかし、平成15年度より家庭科系列と福祉系列の2系列を設定するため、その基礎となる系列科目については悩むところである。家庭科の特性いわゆる生活者である視点を取り組んだ福祉のあり方が大事になってくるのではないかということ。また、福祉施設増設のため調理教室の減少や講師時間増が難しい点などを考え家

庭科としての共通系列基礎科目とするか、それぞれの系列基礎科目とするかは現在検討中である。

◇フードデザイン

1. 科目のねらい

食品、献立、調理に関する基礎的知識・技術習得を終えた生徒を対象とし、時代に見合った食生活環境を整えるため、広い視野から食事を総合的にデザインし実践する能力を育てる。バリアフリー時代のフードコーディネート実践、食文化の変遷と継承、食分野の経営上の基礎などについて、食環境を多角的にとらえる態度を養う。

2. 計画内容

(1) 食事環境の構成要素

・食生活の変遷

日本の食文化(日常食、行事食、郷土料理)

世界の食文化(世界の料理、食の国際化)

・食事のめざすもの

献立選びと栄養選び

食品の選択と調理

(2) フードデザインの構成要素

・料理様式と献立

・テーブルコーディネート

(3) フードデザイン実習

・目的別・対象別の献立と調理

・食事テーマの設定と献立作成

・テーブルコーディネートとサービスの実習

(4) 今後の食の行方

・食サービスの形

食の外注化

レストランの発展と経営の基礎

・食生活環境の問題点

ファーストフードとスローフード

食情報選び

◇ファッション情報

1. 科目のねらい

消費者としての立場から、ファッション産業の仕組みを学び、その上で個性的に着装する態度を育てる。さらに、ライフスタイルとの関連を重視し、自己表現としてのファッションをヘア、メイク、衣服等、トータル的にまとめるセンスを養う。

2. 計画内容

産業・福祉・環境・人権をキーワードとして内容を考えた。

(1) ファッションと自己表現

- ・ライフスタイルをどう表現するか
- ・形と色の感情効果

(2) ストリートファッションの変遷

- ・流行の心理

(3) ファッション産業と消費者

- ・流行の現象と商品の企画

(4) 生活福祉と身障者のファッション

- ・障害と自立と衣生活
- ・生活福祉とバリアフリー

(5) 現代の衣生活の問題点

- ・資源の問題
- ・着用過程での問題
- ・廃棄とリサイクルの問題

以上のように計画しているが、現段階では、まだ思案中である、今後、多くの情報や資料を収集する過程において、柔軟に変更していきたい。

V. 今後の課題

まだ系列としては未完成である。次の事柄をどのようにクリアしていくかが今後の課題である。

- ①生活福祉系列との関連付け。
- ②家庭科領域と他の教科との連携・合科の試み。
- ③家庭科における各領域を総合的に学ばせるための領域を貫くコンセプトがまだしっかりしていない。
- ④系列の核となる科目の開発

以上のことをふまえ、学んだ知識・技術を総合化させ、「生きる力」に、統合していける人材の育成に貢献できる系列内容を構築していきたい。

引用・参考文献

月刊家庭科研究2000.11号

「家庭科で何をどう教えるか」丸岡玲子18ページ

月刊家庭科研究2002.1号

「領域を超えた学習をどうつukっていくか」

荒川紀子6～7ページ